第３回学校運営協議会(R3.12.23)　熟議のまとめ②　「防災」

１「日光川の防災や災害対策を専門家から学ぶ＜県政お届け講座＞」

・防災施設の見学。
・シュミレーション動画などを見て、どれだけ恐ろしいものか理解する。
・生徒、保護者、地域の人たちの参加によって、講座の中で提案、要望ができる。
・どういう対策をしたらよいか学ぶ。

・「４」をやってからすると、頭に入ってきやすい。
・身近なことだから、災害対策を聞いて学んでほしい。
・過去の経験を聞くことで、日常の生活を見直す。
・正しい知識を学べる。

２「伊勢湾台風時の被災者の体験談を聞き、防災活動に反映する」

・疎開したときの記録、困った事等の体験。
・聞いた話を友だちなどに広めていく。

・そのときに「こうすればよかったこと」や「普段からしておけばよかったこと」を聞きたい。
・体験している人の話を聞いて、防災は大切だなと思ってほしい。
・過去の経験を聞くことで、具体的なことを想像できる。
・体験者は皆さん元気です。

・体験者の話を聞く。
・被災者が実際にやったことを説明する。
・画面に映し出して、分かりやすく説明する。
・何回か体験談を聞かせる機会を作る。
・伊勢湾台風の時の写真を見て考える。
・聞いた内容をもとに、レポートを書くとより深まると思う。
・たくさんの人の話を聞いて、いろんなことを知る。

・映像を見せながら行う。
・リモートの形で講座を開く。１
・身近な人（民生児童委員さんやお寺の住職さんなど）に暁中で話をしてもらい、その時の様子聞くことで本当に必要なことや物を教えてもらうと、自分のことのように感じ、危機感をもてる。
・普段防災関係物品が置いてある部屋から運び出すところから始める。

３「避難所運営のシュミレーションを生徒と行う」

・一度体験してみる仕組みにしたら、中学生にとっても理解がしやすい。
・シュミレーションも大事だけれど、体験もしてみる。
・シュミレーションだけでなく、被災時の具体的な様子を講座に近い形で聞いて知る。
・普段防災関係物品が置いてある部屋から運び出すところから始める。

・保護者と生徒数人ずつでグループになる。
・どこが安全なのかをしっかり理解していると、いざというときに津波などから逃げられるため。
・地域の地形を知ることで、何か起こったときにどう動いたらよいか分かる。
・歩くことで距離が分かるので、実際に荷物を持って体験。

４「ハザードマップづくりで通学路等を歩き、危険個所把握と被害を想定し、被災時の判断力と行動力を体験する」

・ヘルメットや家具を固定する物を配る。１
・中学校で防災訓練を行う日に小学生や幼児も行い、地域の人も参加する。

・いつ災害がくるか分からないから、避難経路などをしっかりと確認する。
・防災に関して話し合いをもつ。

・中学生、小学生、保育児で一緒に行動する。
・ハザードマップを作るだけでなく、実際に歩いてみることによって頭に入れる。
・自分でハザードマップを作成し、通学路以外にも別の小学校区側も歩いてみれば、知らなかった道を災害時に使える。
・ハザードマップに危険な所も記入し、行政にも改善をお願いする。
・小中学生と大人で、自分たちが住んでいる場所の地図を持って、危険箇所の把握をする。

５「サバイバル防災キャンプや炊き出し訓練」

・部活動で行うと団結がより出てくるし、災害時にどうしたらよいか分かる。
・地域の方との交流を深められる。

・炊き出しととかは、楽しく覚えるとよいから友達とやったりできるとよい。
・炊き出し訓練をする。
・防災関係、訓練に積極的に参加する。
・日中だけでなく、夜間も電気のないことを頭に入れて訓練する。

・聞いて学ぶのもよいと思うが、炊き出し訓練はやって身に付くため、体が覚えられる。
・最初はやり方を教えず、自分のやり方でやってもらって、後から本当のやり方を学んでもらう。
・被災したら一日では元に戻らないから、宿泊型で実際と近い形でやってみると楽しく参加できる。
・中学生にも積極的に参加してもらい、何でも体験させる。
・豚汁、カレー等を大釜で作る。